

まちの安心・安全につながる

横浜の「減災」 アイデア集

町の防災組織 活動事例集



横浜市 危機管理室

はじめに

市内には、2,700 団体を超える「町の防災組織」が結成され、いざというときに備えて、自分たちの地域を守るための活動に取り組んでいます。しかし、取組を進めていくには色々な課題があるかと思っています。

「防災担当を前任から引き継いだが、何をすればよいか分からない」
「訓練をやっても人が集まらない。いつも同じメンバーしか集まらない」
「訓練がマンネリ化している」 など

そこで、こういった課題を解決する参考としていただくため、地域の特性に合わせた取組を進めている団体の活動事例を、「ヨコハマの『減災』アイデア集」としてまとめました。

この事例集作成にあたっては、NPO 法人横浜プランナーズネットワーク*の協力の下、特徴的な活動をしている団体をピックアップし、各団体の取組内容について取材させていただきました。

なお、この冊子に掲載した事例は、一例で、市内には他にも多くの優れた取組があるかと思っています。先進的な取組については、本市にご紹介いただければ幸いです。

最後に、ご多忙の中、ご協力いただきました各団体の皆様に感謝申し上げますとともに、この事例集を参考に、町の防災組織がより一層活発に活動していただけることを期待しています。

平成 28 年 3 月

横浜市総務局危機管理室

※ NPO 法人 横浜プランナーズネットワークとは……

横浜を活動フィールドとする建築家、都市プランナー、まちづくりコーディネーター、造園家、地域ケアの担い手等、まちづくりに関わる専門家同士が、相互の専門性を高めるとともに、市民の立場に立ったまちづくりについて提案し、市民による自発的なまちづくりを支援することを目的として設立した団体です。（平成 10 年、任意団体設立。平成 18 年、NPO 法人設立。）

市内各地域での防災まちづくり活動の支援等も行っています。

この事例集作成では、内海宏・大澤浩一・奥村玄・桜井悦子・杉野展子・古居みつ子・山路清貴が、資料収集・執筆・編集に協力しました。

事例集作成にあたってご協力いただいた方々

(団体名、氏名五十音順)



一本松まちづくり協議会 事務局長
(西区)

河野 史明さん



片倉町大丸町内会 会長 (神奈川区)

松島 宗さん



グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会 会長兼防災委員会委員長 (戸塚区)

川畑 孝男さん



グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ 管理
組合理事長兼防災委員会委員 (戸塚区)

吉田 郁夫さん



西平沼町宮元会 総務部長 (西区)

米田 英治さん



平安町町会 会長 (鶴見区)

河西 英彦さん



箕輪町災害対策連絡会 事務局長
(港北区)

小泉 義行さん



箕輪町災害対策連絡会 副会長
(港北区)

斉藤 忠一さん



矢向中学校 PTA 会長 (鶴見区)

上田 雅弘さん



ヨコハマタワーリングスクエア
自治会 会長 (西区)

平野 周二さん



一本松まちづくり協議会 副会長
(西区)

米岡 美智枝さん



くぬぎ台団地自治会 会長
(保土ケ谷区)

鈴木 方規さん



グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ
自治会 防災委員会副委員長 (戸塚区)

横山 清文さん



子安通三丁目自治会安全対策室室長
(神奈川区)

増田 智代さん



日下地域ケアプラザ所長 (港南区)

沼 佐代子さん



三井杉田台自治会 防災顧問
(磯子区)

片山 晋さん



箕輪町災害対策連絡会 会長
(港北区)

小島 清さん



六ッ川地区連合自治会 相談役 (前会
長) (南区)

東梅 良成さん



谷戸自治会 事務局長 (瀬谷区)

清水 靖枝さん



横浜ひなたやま支援学校 地域防災
拠点運営委員長 (瀬谷区)

後藤 徹也さん

NPO 法人横浜プランナーズネットワーク



杉野 展子さん



山路 清貴さん

目次

はじめに	1
■ この事例集の使い方	5
■ 事例インデックス	6
■ 町の防災組織について	8
■ 事例	
1 地域に防災知識を広めよう	13
①基礎的な訓練や研修をやってみる	14
②訓練や研修に一工夫を加える	23
③なにかのついでに訓練や啓発をやってみる	30
2 地域の特性を把握しよう	35
①「まち歩き」を試してみる	36
②「マップ」を作成する	39
③「マップ」を活用してまちへの理解を深める	42
④地域特性に応じた対策を考える	43
3 安否確認ができる関係をつくろう	45
①地域の要援護者を把握して支援に備える	46
②日頃から住民同士の関係づくりに取り組む	49
③災害時の安否確認方法を工夫する	51
④自分の身に何かあった時、役立つ情報をまとめる	57
4 防災の担い手を増やそう	59
①若い年齢層を対象としたイベントを開催する	60
②幅広い層を取り込むため、組織作りを工夫する	63
5 地域の中で連携しよう	69
①地域防災拠点とのつながりを確認する	70
②企業や施設など、地域の資源と協定を結ぶ	74
③災害ボランティアの協力を得よう	78
6 マンションの対策に学んでみよう	81
①マンションの強みと弱みを理解した活動を考える	82
②マンションの防災体制を整理する	87
③マンションと周辺地域の関係づくり	88
■ 参考資料	89

■町の防災組織について

共助が重要な理由	8
----------	---

■地域に防災知識を広めよう

減災パンフレット「わが家の地震対策」	15
初期消火訓練・救出救護訓練・避難訓練	18
情報受伝達訓練とは	20
「市民防災センター」を活用しよう	21
防災シミュレーションゲーム	25
もしもの時こそ女性の視点を大切に	29
地域で広めてもらいたい減災対策	33

■地域の特性を把握しよう

ハザードマップを活用し、地域のことを調べてみよう !!	37
地域の地図を作ってみよう !! (わいわい防災マップの活用)	41
地域特性(災害リスク)に応じた防災訓練を実施しよう	44

■安否確認ができる関係をつくろう

横浜市の要援護者対策	48
------------	----

■地域の中で連携しよう

各区の災害ボランティアネットワークとは	79
避難者情報の登録・確認方法	80

■マンションの対策に学んでみよう

マンションの強みと弱み	82
-------------	----

この事例集の使い方

この事例集は、テーマ別に構成しています。

活用にあたっては、最初から全部読まなくとも、関心のあるテーマ、解決したいテーマ等、必要に応じて、参考となるところから読んでみてください。

① 事例集を参考に地域特性に合った減災活動を実施する

事例の中から、自分の地域の特性に合ったもの、課題となっているものを選んでやってみましょう。

② 実践者のアドバイスを参考に、自分の地域に合わせて取り入れる

訓練やイベントがマンネリ化していませんか？ 面白い取組等、自分の地域の特性に合わせて取り入れてみましょう。

③ 少しずつはじめる。

最初から全てできなくても構いません。まずは人を集め、できそうなことや地域で課題となっていることから少しずつ始めてみましょう。

マニュアルや計画を作ることも必要ですが、まずは、実践してみることが大切です。



片倉町大丸町内会は、瀬谷区谷戸自治会から「おとなり場」の仕組みを学びました。町内会で実施されているところを実際に見学し、講習もしていたいて、これはもう絶対、これをやろうと。

何年もかかってやってこられたことを、我々がすぐいただくって申し訳ないですが、成功例から学ぶと、タイムマシンのように時間を短縮できます。10年くらいは短縮できたと思います。

神奈川区 片倉町大丸町内会 松島 宗さん



「おとなり場」の仕組みをスタートさせるまでに6年間もかかったんですよ。でも、取組が広まることは大歓迎です。

瀬谷区 谷戸自治会 清水 靖枝さん



他の地域の取組をそのまま真似するだけではだめです。自分の地域に合せて、うまくかえて取り入れることが大切です。

神奈川区 子安通三丁目自治会 増田 智代さん



防災は、積み重ねが大切です。一気にできるものではないので、できることからやっていくことが大切です。

鶴見区 平安町町会 河西 英彦さん

事例インデックス

減災活動事例	地区	区	組織の種類	団体の規模 (世帯数) (概数)	ページ
1 地域に防災知識を広めよう					
①基礎的な訓練や研修をやってみる					
事例 1 防災イベントの開催	子安通三丁目自治会	神奈川区	単位自治会	1,800	14
事例 2 基礎的な防災訓練	市内における取組				16
事例 3 トランシーバーによる情報受伝達訓練	くぬぎ台団地自治会	保土ケ谷区	単位自治会	1,000	19
事例 4 移動放送設備による住民への情報伝達	くぬぎ台団地自治会	保土ケ谷区	単位自治会	1,000	20
②訓練や研修に工夫を加える					
事例 5 地域防災拠点での宿泊訓練	箕輪町災害対策連絡会	港北区	単位自治会の防災組織	3,500	23
事例 6 夜間訓練	くぬぎ台団地自治会	保土ケ谷区	単位自治会	1,000	24
事例 7 不意打ち訓練	三井杉田台自治会	磯子区	単位自治会	500	26
事例 8 「防災カルタ」の作成と一斉訪問	三井杉田台自治会	磯子区	単位自治会	500	27
③なにかのついでに訓練や啓発をやってみる					
事例 9 一斉清掃後の防災訓練	箕輪町災害対策連絡会	港北区	単位自治会の防災組織	3,500	30
事例 10 炊きだし訓練を兼ねた餅つき大会	羽沢西部自治会	西区	単位自治会	500	31
2 地域の特性を把握しよう					
①「まち歩き」を試みる					
事例 11 「まち歩き」と記録	雑色町内会	港南区	単位自治会	1,400	36
事例 12 防災ウォークラリー	六ツ川地区連合自治会	南区	連合町内会	5,200	38
②「マップ」を作成する					
事例 13 「ガリバーマップ」の作成	日下連合町内会	港南区	連合町内会	3,800	39
事例 14 「逃げること」だけを考えた防災地図	一本松まちづくり協議会	西区	複数の自治会によるまちづくり協議会	1,100	40
③「マップ」を活用してまちへの理解を深める					
事例 15 町内減災オリエンテーリング	一本松まちづくり協議会	西区	複数の自治会によるまちづくり協議会	1,100	42
④地域特性に応じた対策を考える					
事例 16 洪水からの避難訓練	平安町町会	鶴見区	単位自治会	3,000	43
3 安否確認ができる関係をつくろう					
①地域の要援護者を把握して支援に備える					
事例 17 おとなり場カード	谷戸自治会	瀬谷区	単位自治会	900	46
事例 18 災害基本台帳・会員名簿登録カードと登録者訪問	箕輪町災害対策連絡会	港北区	単位自治会の防災組織	3,500	47
②日頃から住民同士の関係づくりに取り組む					
事例 19 「おとなり場」グループを活用した助け合いの関係づくり	片倉町大丸町内会	神奈川区	単位自治会	500	49
事例 20 「おとなり場交流会」、「お助け袋」、「おとなり場グッズ」	谷戸自治会	瀬谷区	単位自治会	900	50
③災害時の安否確認方法を工夫する					
事例 21 おとなり場「被災状況カード」	谷戸自治会	瀬谷区	単位自治会	900	51
事例 22 安否確認の表示方法のいろいろ	市内における取組				52
事例 23 タオルを使った安否確認訓練	住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会	中区	複数の自治会によるまちづくり協議会	1,000	53
事例 24 全員で行う安否確認訓練	三井杉田台自治会	磯子区	単位自治会	500	55
事例 25 要援護者避難訓練	平安町町会	鶴見区	単位自治会	3,000	56
④自分の身に何かあった時、役立つ情報をまとめる					
事例 26 災害・事故れんらくカード	くぬぎ台団地自治会	保土ケ谷区	単位自治会	1,000	57

■ 各事例についてのお問い合わせ

横浜市総務局危機管理課 電話 045-671-2012

減災活動事例	地区	区	組織の種類	団体の規模 (世帯数) (概数)	ページ
4 防災の担い手を増やそう					
①若い年齢層を対象としたイベントを開催する					
事例 27 「防災カステップアップキャンプ」の開催	一本松まちづくり協議会	西区	複数の自治会によるまちづくり協議会	1,100	60
事例 28 中学生が多数参加する防災訓練	江ヶ崎町内会	鶴見区	単位自治会	2,000	62
②幅広い層を取り込むため、組織作りを工夫する					
事例 29 マンション内の同好会との協力関係	ヨコハマタワーリングスクエア自治会	西区	単位自治会	600	63
事例 30 若い人が参加しやすい組織作り	子安通三丁目自治会	神奈川区	単位自治会	1,800	64
事例 31 参加率を上げるための工夫	グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会	戸塚区	単位自治会	200	65
事例 32 防災活動への意識の高い人を公募する	六ッ川地区連合自治会	南区	連合町内会	5,200	66
事例 33 団塊の世代を取り込む「おやじの広場」	阿久和北部連合自治会	瀬谷区	連合町内会	3,500	67
5 地域の中で連携しよう					
①地域防災拠点とのつながりを確認する					
事例 34 「地域防災拠点」との関係を整理した防災マニュアル	ひなた山第一自治会／横浜ひなたやま支援学校地域防災拠点	瀬谷区	単位自治会	200	70
事例 35 「おとなり場」、「自治会災害本部」「地域防災拠点」の関係	谷戸自治会	瀬谷区	単位自治会	900	71
事例 36 一品一食運動	くぬぎ台団地自治会	保土ヶ谷区	単位自治会	1,000	72
事例 37 地域防災拠点と単位自治会が連携した防災訓練	南中学校地域防災拠点	南区			73
②企業や施設など、地域の資源と協定を結ぶ					
事例 38 地域内の各種施設や企業との連携協定	子安通三丁目自治会	神奈川区	単位自治会	1,800	74
事例 39 高齢者グループホームとの消防応援協力	西寺尾第三自治会	神奈川区	単位自治会	1,700	75
事例 40 マンションとの津波避難施設協定	西平沼町宮元会	西区	単位自治会	300	76
事例 41 商業施設との災害発生時の応援協力	駒岡地区連合会／寺尾地区自治連合会	鶴見区	連合町内会	15,000	77
③災害ボランティアの協力を得よう					
事例 42 区災害ボランティアネットワークとの連携	平安町町会 / 鶴見区災害ボランティアネットワーク	鶴見区	単位自治会	3,000	78
6 マンションの対策に学んでみよう					
①マンションの強みと弱みを理解した活動を考える					
事例 43 災害時のマンション内ルールと本部機能	グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会	戸塚区	単位自治会	200	83
事例 44 3.11 でも役だったアイテム	グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会	戸塚区	単位自治会	200	84
事例 45 ホワイトボードを使った安否確認	グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会	戸塚区	単位自治会	200	85
事例 46 自宅内避難への支援	ヨコハマタワーリングスクエア自治会	西区	単位自治会	600	86
②マンションの防災体制を整理する					
事例 47 管理組合と自治会合同の防災管理グループ	ヨコハマタワーリングスクエア自治会	西区	単位自治会	600	87
③マンションと周辺地域の関係づくり					
事例 48 周辺地区とともに楽しむ桜祭り	グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会	戸塚区	単位自治会	200	88

町の防災組織について

1 町の防災組織とは

定 義

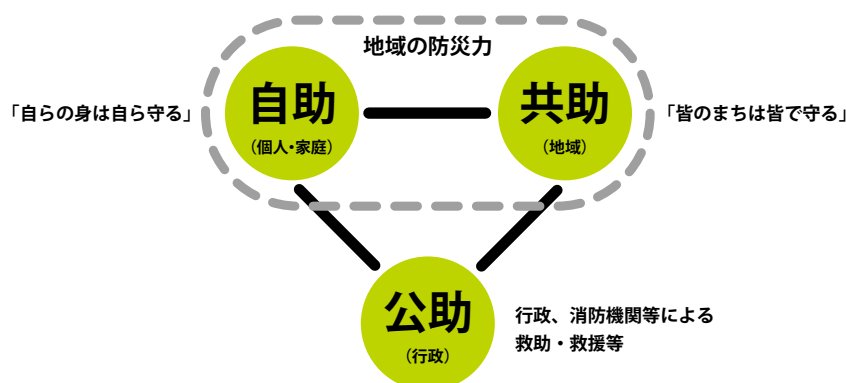
- ・「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織
- ・災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織

消防庁発行「自主防災組織の手引」より

地震に限らず、台風等、大規模な災害が発生した時、救出救助をはじめ、行政からの支援は皆さんのもとにすぐには届きません。

そのため、災害による被害を軽減するためには、自分や家族を守るための備えや行動をとる「自助」とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いながら防災活動に取り組む「共助」が重要です。

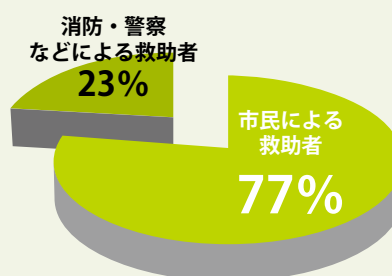
町の防災組織は、「自らの身は、自ら守る。」「自助」と「皆のまちは、皆で守る。」「共助」という認識のもと、災害発生時はもちろん、平常時から地域の皆さまと一緒に防災活動に取り組む組織です。



Column

共助が重要な理由

阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下敷きになって自力脱出できなかった人の約8割は家族や隣近所によって救出されました。(右図) このように災害発生直後には家族や隣近所による救助活動が重要です。



出典:河田恵昭:大規模災害による人的被害の予測、自然災害科学 Vol.16,N.1,pp.3-14,1997

2 町の防災組織の目指すべき姿

1 地域住民一人ひとりが、災害から「命を守る」ための備えがしっかりできている。

活動例

- ・家具の転倒防止対策など自助の取組を広める
- ・防災イベントの実施 など

2 町の防災組織として、地域の特性に合った減災活動を実施している。

活動例

- ・危険箇所のマップづくり
- ・特定の被害を想定した防災訓練の実施 など

3 発災時に、近隣住民がお互いに助け合うことができるよう、関係づくりができている。

活動例

- ・要援護者の把握
- ・企業等との協定の締結 など



普段から防災活動を行っていないと、いざ災害が起きても対応できません。たとえば、災害時に安否確認をするためには、日頃から顔の見える関係づくりが必要です。防災活動の基本は、防犯や、高齢者の見守り活動など、住民の安心安全を担保するための活動を日常的に行うことです。

保土ケ谷区 くぬぎ台団地自治会 鈴木 方規さん



防災の基本は「自分の身は自分で守る」を合言葉にしています。防災活動も備蓄などの備えも、日常の積み重ねと工夫で無理なく蓄えていきましょう。

見守り助け合いは、日常の近所付き合いを大切に広げていくことで「町の安全・心の安心」が築かれていきます。

「訓練は実践のように！実践は訓練のように！」 防災訓練に参加しましょう！

鶴見区 平安町町会 河西 英彦さん

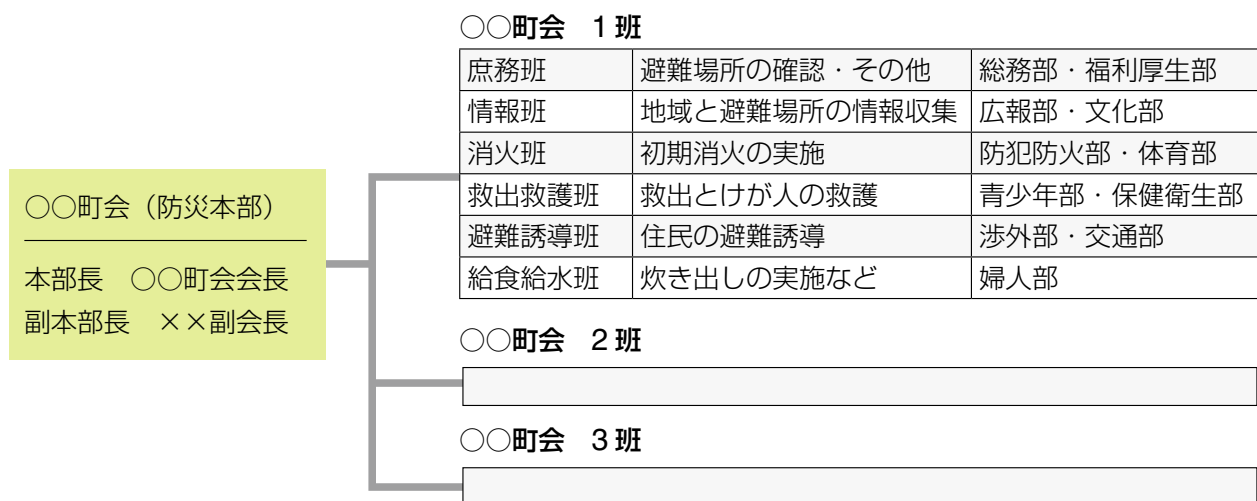
3 町の防災組織の活動

① 組織の構成

地域の実情に応じた、組織体制をつくりましょう。

昼間と夜間では、地域にいる人も違います。災害時に臨機応変に対応できるように、予め対策を考えておくことも必要です。

【町の防災組織の構成例】



② 町の防災組織の活動

平常時はどんな対策を進めるか、災害時はどのように活動するかなど、地域の実情にあわせて検討しておきましょう。(「町の防災組織の定める活動計画(例)」参考資料① P90 参照)

【町の防災組織の定める活動計画の項目例】

- 1 防災組織の編成及び任務分担に関すること。
- 2 防災知識の普及に関すること。
- 3 防災訓練の実施に関すること。
- 4 情報の収集及び伝達に関すること。
- 5 出火の防止及び初期消火に関すること。
- 6 救出救護に関すること。
- 7 避難誘導に関すること。
- 8 給食給水に関すること。
- 9 市民が任意に設置した避難場所の支援に関すること。
- 10 地域防災拠点との連携に関すること。

【日常における主な活動例】

- ・ 防災知識の広報・啓発
地域ぐるみでの防災意識の醸成（イベントや広報紙など）
家庭内の安全対策（耐震化、家具の転倒防止など）
- ・ 地域の災害危険の把握（ハザードマップ、まち歩き）
- ・ 防災訓練（個別訓練、総合訓練）

【災害時の活動例】

- (1) 情報の収集及び伝達
- (2) 出火防止、初期消火
- (3) 救出・救護
- (4) 避難（避難誘導）
- (5) 在宅被災者への物資の集配

町の防災組織の活動イメージ（地震の場合）

	地震発生	～ 3 分	～数時間	～ 3 日
何が起ころ？		家屋の倒壊 家具の転倒 ガラスの飛散 火災の発生 公共交通機関の停止 電話の不通 電気・ガスの供給停止 道路の不通	津波の発生	避難の開始 避難生活（地域防災拠点 / 在宅） 物資の不足
自助	身の安全の確保 出火防止		家族の安否確認 情報収集 初期消火 避難	
共助			隣近所の安否確認 地域での消火活動 安全な場所への避難 避難誘導 救出・救護活動 情報収集	避難所運営 在宅の被災者への 情報伝達・物資の集配

※この表は例示であり、実際の地震発生時にこの通りのことが起きるとは限りません。災害が起きたときのことをイメージし、考えられる状況を家族や地域の皆さんで話し合い、その時にどう行動したらよいのか考えてみましょう。そして、**自助・共助の行動を取るために、各家庭や地域で日頃から何を備えておく必要があるか**考え、行動に移しましょう。

③ 町の防災組織と「地域防災拠点」との連携

町の防災組織にとって、「地域防災拠点」は、災害時には、様々な災害情報を入手したり、食糧や水などの支援物資を受け取るなど、重要な場所となります。災害時にお互いに連動できるように、平時から、それぞれの横のつながりを確認し、効率的な共助の体制や自主防災力の強化を図っていくことが必要となります。

	町の防災組織	連 携	地域防災拠点 運営委員会
平 時	・ 防災組織の役割分担・組織編制作成 ・ 連絡体制の整備 ・ 防災知識の普及・啓発活動 ・ 防災訓練・避難訓練の計画・実施 (情報収集・共有・伝達訓練を含む) ・ 地域の特性を把握 (災害危険は何か、活用できる資源はあるか) ・ 防災マップの作成 ・ 避難路・避難場所の確認 ・ 要援護者の把握、見守り活動等の実施 ・ 活動資機材等の備蓄 ・ 救助技術の習得 ・ 出火防止 ・ 地域の関係団体との連携		・ 教室の選定等、関係者との事前打合せ ・ 拠点運営マニュアルの作成 ・ マニュアルを用いた開設・運営訓練 ・ 防災資機材の取扱講習 ・ 拠点周辺の危険箇所等を確認し、防災マップを作成するなど、防災意識向上のための啓発活動 ・ 防災リーダーの育成 ・ 地域のボランティア団体との連携 ・ その他、地域防災力の向上に必要なこと
発 災 時 の 避 難 行 動	・ 災害情報の収集・共有・伝達 ・ 初期消火活動 ・ 安否確認 ・ 救出・救護 ・ 避難誘導 ・ 負傷者の応急手当又は医療機関への誘導		・ 災害情報の収集・共有・伝達 ・ 救出・救護 ・ 避難誘導
避 難 生 活	・ 任意避難場所の支援 ・ 在宅の被災者への情報伝達・物資の集配		・ 生活情報の収集・伝達 ・ マニュアルに従った開設・運営（避難者名簿作成、区画割り、食料・飲料水・生活用水の配布、不足分の要請、仮設トイレの設置、防犯パトロールの実施、要援護者の把握・援護など） ・ 防災ボランティア等との連携 ・ 任意避難場所・在宅の被災者への情報・物資の提供 ・ 負傷者の応急手当又は医療機関への引継ぎ